

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201918		
法人名	医療法人 社団 真友会 藤井医院		
事業所名	グループホームことひら ユニット名 ひかり		
所在地	長崎県佐世保市御船町411-3		
自己評価作成日	令和5年4月13日	評価結果市町村受理日	令和5年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保湾が一望できる高台に位置する当ホームは、理事長である母体医院の医院長が、長年「地域に根ざした医療を」と取り組んできた地域に、感謝の意を込め設立された。その意思を前施設長が受け理念に掲げ、職員に丁寧に伝えた結果、施設長交代があった今でも全職員にその思いが浸透している。私たちは「最期までその人らしさを大切に」という思いを胸に、入居者様・ご家族が「ここで過ごせて良かった」と言っていたりするような介護を目指し、日々支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは佐世保市街地の港が一望できる高台の位置にあり、各居室からの眺望に優れている。バス停から徒歩数分の場所にあり、駐車場も広く、家族にとって訪問しやすく利便性に優れた場所にある。かかりつけ医である母体法人の理事長が看護師同行の下、日々ホームを訪問し、入居者の健康管理、病気の早期発見、体調不良者のフォロー等連携し、家族、入居者の安心感に繋がっている。ホームに隣接している系列のデイサービス事業所から理学療法士のアドバイスや、厨房による入居者の食事調理、職員同士による合同避難訓練を行うなど、協力体制を構築している。ホームの敷地内にある花壇には、季節の花や野菜を植え、職員と一緒に入居者が植栽や収穫を手伝う姿があり、和やかな雰囲気が窺える。職員同士の関係性も良好で、訪問調査時においても常に笑顔を決やさない姿からは、入居者へ寄り添う気持ちで接し、安心感と安らぎを与えていることが窺えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

ユニット名 ひかり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ感染拡大時期より、全体での朝礼は行っていません。令和5年5月9日より、分類が2分類から5分類に変わった為、全員朝礼が再開しました。	ホームの理念を短い言葉で表現した『思いやり、感謝』の言葉を事務所に掲示している。①理念②ホームの目的③運営方針の3項目を毎月交互に唱和し再確認している。職員は毎年個人目標を設定し、半期ごとに管理者、施設長と面談し、評価、アドバイスを受け次年度に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染に伴い、地域の方は運営推進会議の書面上にて参加され、意見を頂いています。また、秋祭りや園児・学童との交流は、一時中止しています。	管理者は運営推進会議のメンバー等から地域行事の情報を得ており、今後のコロナ禍収束を見据え、コロナ禍以前に行っていた運動会見学や地域祭への参加等を再開する予定である。公民館主催のいきいきサロンにケアマネージャーが出席し、ゲームの提案を行うなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で報告する以外にも、問い合わせに関しては、随時受け付けています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内容を、書面にて地域の方々に報告し、意見を頂いています。	コロナ禍により運営推進会議は書面会議を余儀なくされていたが、6月より、地域代表者、地域包括支援センター職員、家族代表、各ユニット入居者代表、他施設の管理者をメンバーとして正式に会議を開催し、活発な意見交換が行われた。メンバー以外の家族等が何時でも会議内容を閲覧できるように会議録を玄関に保管している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修は、リモートにて参加しています。また、市・地域包括センターよりの、空床状況の問い合わせの情報交換を行う等の、連携に努めています。	市グループホーム連絡協議会のブロック研修会を通じてヒヤリハットをテーマにした勉強会を当ホームが担当し、開催する等、行政や関係機関と協力して取り組んでいる。地域包括支援センターからは入居者の空床問合せ等にも応じ、情報交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	令和4年3月より、事業所内での身体拘束委員会を設け、年4回の話し合いを行い、内容を全職員に報告してケアに活かしています。	訪問調査日現在、身体拘束に該当する事例はない。転倒防止目的のためセンサーマット使用しているが、使用目的等を家族に説明し同意を得ている。従来は運営推進会議と同時に身体拘束委員会を開催していたが、理事長、施設長、ケアマネジャー、身体拘束委員、介護職員をメンバーとして新たに身体拘束委員会を設け定期的に開催しており、身体拘束に関する勉強会も年2回実施し記録に残している。	虐待の防止のための措置に関する事項は、令和6年3月31日までに運営規程に定めることが求められているため、今後運営規程を見直し必要な記載を行うことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会時に、身体拘束委員による勉強会を年に2回行い、職員一人一人の介助を行う中で、「これって？」と思う介助をしてないか等を、アンケートを取り話し合い、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を活用されている方はいません。勉強会も出来ていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の利用者・ご家族の質問には適切に答えられるようにしています。改定時には都度書類を準備し、説明と同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の際に、相談できる機関を書面にてお伝えしています。また面会などに来られた際に、声かけを行っています。	ホームではコロナ5類移行に伴い、家族との面会を再開している。意見箱は現在設置していないがホームの姿勢を表す手段の一つとして設置を予定している。	重要事項説明書にはホームの苦情相談窓口について明記しているが、今後、苦情解決責任者、及び外部の苦情受付機関(行政機関等)を明確にし、重要事項として説明することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職務中も気付いた事は、意見してもらっています。月に一度の定例会・フロアミーティングにおいて、意見交換・提案を話し合っています。	毎月、定例会、各ユニット会議を行い、職員間で意見交換を行っている。職員からは入居者支援の一環として、併設デイサービス厨房が提供する食事日以外に土・日曜及び夕食作りに調理専門職員採用の要望が挙がり、現在2名の調理員を採用するなど職員意見の反映に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意欲的に、資格を取得するよう、各種手当を整備しています。また、個々の労働時間にも対応し、外部研修等の要望があれば、参加しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にあった外部研修には、オンラインにて参加させています。また研修案内を回覧して、自ら研修を希望する職員もいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防の為、オンライン研修に参加しており、交流する機会は今は出来ていません。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が、1～2名の入居者様の担当を受け持っていて、その方々にあったプランを作成し、安心を確保できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で、ご家族と職員の信頼関係が良好である方が、さらにより良い介護を提供できる旨を説明し、何かあれば何でも度の職員にも伝えて下さるよう、お願いしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	得た情報、本人様・ご家族様の意見を基に、医療・歯科などの専門医療・理学療法士・入浴などの介護など様々な分野から、どれをいち早く支援するべきかを、多職種で検討し提供できるようにします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に掲げている「家庭的な環境のもとで」を基に、ご本人が出来る事はして頂き、また人生の先輩として分からない事を教えてもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染予防により、ご家族と一緒に行事や食事等は出来ませんでした。分類が変わることで、ご家族との交流が出来るように、行事計画を立てていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・ご友人・ご近所の方との面会は、3月より居室のみでの訪問が出来るようになりました。また、馴染みの場所や近場にドライブにお連れしています。	職員は家族や入居前の施設等からの情報及び入居後の聴き取りにより馴染みの場所、昔の生活振り等を把握している。入居者の生家近辺へのドライブや、現役時代の働いた経験をホームで発揮する等、入居後も関係を継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が得意とされることを(作品作り等)、職員や他の入居者様も交えて、お話ししながら行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了されても、相談を持ち込まれることがあれば、出来る範囲で対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりが生活をされている中で、表情や思いに寄り添えるケアを行い、笑顔を引き出せる様に努めています。	入居者の思いや状態は日々変化する為、職員は本人の表情や身振りを観察し把握に努めている。入居者毎に担当職員を配置しているが入居者との相性もあり、適宜対応し本人から聴き取った内容は申送りノート、日報、毎月の会議時報告、個人カルテに記載し、職員間で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様自身よりお話ししていただく他、ご家族や入所前に利用されていた介護事業所・主治医より情報を頂き、可能な範囲で把握できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の流れとして、自ら出来る事を入居者様・職員間での会話をする中で情報を得、日常生活の一環として過ぎて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者・計画作成担当者を主に、入居者様やご家族の思いを伺い、その情報を基にカンファレンスを実施し、計画を作成しています。	担当職員が1ヶ月単位でサービス内容を記載した実施記録に基づき、○×の記号で評価し、毎月のフロア会議時に全職員で話し合い、3ヶ月毎に入居者毎の会議を通じて介護計画の見直しを行っている。併設デイサービスの理学療法士、提携医のアドバイスも随時受けている。計画書書式も最新の様式を採用し記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに、日々の情報を職員全員で共有できるようにしています。また、カルテの特記にも記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の様々なニーズに、可能な限り対応したいと考えています。ホーム内でサービス対応できない時は、ホーム外のサービスと連携し、対応できるように日々取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の殆どが当ホーム周辺の方で、今と昔の時代の変化を懐かしく話されます。また住み慣れた場所周辺へと、ドライブにお連れしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望があれば、他の医療機関の受診も行っており、当医院では二週間に一回の訪問診療・居宅療養管理指導を行っています。また主治医が、毎朝の様に入居者様の状態を診に来られます。	提携医である母体病院から週2回の訪問診療、及び訪問看護が行われている。また、当法人理事長である主治医が毎朝近隣家庭への往診の道すがらホームを訪問しており、入居者、家族、職員各々が医療面での安心感に繋がっている。提携の歯科から定期的に訪問診療があり、突発的な場合はFAXで予約し往診を受ける事ができる。他科への受診は家族による対応を基本とし、その受診結果を家族がホームへ伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週の日中は、常勤の看護師に診てもらっています。夜間緊急時は看護師へ連絡し、看護師より主治医に状態報告をし指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先との情報交換を行い、入居者様が安心して入院生活を送り、早期に退院する事が出来るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームは母体が医院である為、医師・看護師との協力体制が十分に取られています。入居者様・ご家族の意見を第一に、最期までその人らしく過ごして頂けるよう支援しています。	重度化した場合の対応指針、看取りに関する指針に基づき、入所時に入居者や家族に意向を聞き取っている。看取り期の判断、説明は主治医が行い、ホームで家族に再度意向を聞き同意書を得ている。医療行為は主治医の指示の下、主に病院の看護師が行っているが、夜間時、緊急時対応の場合はホームの看護師及び併設するデイサービスの看護師が対応しており、入居者、家族の安心感に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会の勉強会において、看護師より初期対応の訓練を学んでいます。またコロナ感染予防に伴い、感染対策委員を立ち上げ、年2回の勉強会を行ってもらっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	コロナ感染予防の為、防災委員が主となり避難訓練を月2回、職員・入居者様で行っていました。令和5年5月9日より5分制になり、消防署より来所しての避難訓練を行っています。(5月25日訓練実施)	消防署立会いの下、併設のデイサービスと合同で昼間想定避難訓練を行い、入居者と職員が参加している。訓練時の写真添付、反省記録も残している。7月には土砂災害を想定した避難訓練を予定している。有事の際の役割分担、緊急時の入居者情報一覧も整備しているが、不足している箇所(明確な役割決め、医療保険情報、入居者の全体写真)が窺え、今後、追記しておくことを期待する。	コロナ禍を踏まえ、現在、感染症に対する業務継続計画(BCP)のたたき台を作成している。今後、系列事業所と連携しながら、感染症、自然災害に対するBCPの策定と共にBCP訓練の実施に期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への言葉使いには十分に気をつけて、声のトーンや声掛けの仕方を配慮しています。時に、声が大きくなることもあり、職員間で注意し合っています。	ホームの接遇委員が日程を決め毎年接遇マナーの勉強会を行い、入居者へのプライバシーを尊重した言葉掛け、適切な支援が行われている。管理者は正しいとは言えないケアや対応があった場合は、その時点で職員個人のプライドを損ねないようにアドバイスを行っている。また、定例会などを通じ職員がコミュニケーションを図り、互いに注意し合える関係づくりを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望を優先とし、どの職員にでも気軽に思いを伝えてもらえるような、環境作りに心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの1日の流れは決まっていますが、あくまでも入居者様に合わせたペースで、過ごしてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみをご自身で出来る方は、化粧水を付けたり、髪をクシで梳いておられます。服もタンスより選んで着ておられ、ご自分で出来ない方は、お手伝いしています。また3ヶ月に一回散髪屋さんが来所され、カットしてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の体調を見て、その方が出来る食器拭き・お米洗い・野菜の皮むき等を、お手伝いして下します。	平日の昼食は隣接するデイサービス厨房から提供し、土・日曜日と毎日の夕食をホームの調理専属職員が調理している。日々、食材、色取り等を吟味工夫し、一週間のメニューを作成し食材は提携店にFAXを送り配達を依頼している。おやつ作り、食器類の片づけ、包丁磨ぎ等、入居者ができる範囲で関わってもらい、楽しみながら食事を摂っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の少ない方は、栄養補助食品等を提供しています。また1日に必要な水分量(1500cc位)を目標に、お茶・コーヒー・水分ゼリー等を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時には同行し、見守り・介助を行っています。また口腔内の治療を必要とするときは、当ホーム担当歯科医が受診に来所されます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により、1日の排泄パターンを把握し、排泄の失敗回数が軽減できるように支援しています。また、その方に合った布パンツ・尿取りパット・リハビリパンツを使用されています。	職員は排泄チェック表を用いて各入居者の排泄パターンを把握し、適宜な声掛け、誘導を行い、トイレでの排泄を心掛け、自立に向けた支援を行っている。夜間帯は3時間毎に見回りを行っており、ポータブルトイレを使用した場合は、使用后、洗浄乾燥を行い、日中の居室ではカバーを掛けて配慮している。パッドやリハビリパンツに関し、入居者にとって必要なサイズや使用量となっているかを職員間で検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食事のお茶や服薬時の水を、しっかり摂られない方には、水分ゼリーを提供しています。他にも、ヤクルト・ミルミルを、毎日飲んでもらっています。		
45	(17)	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回入られており、その日に(入浴日)気分が乗らない方は、翌日に入ってもらっています。また、介助が必要な方は、シャワーチェアを使用しています。時に、携帯で演歌や童謡を聴きながら、湯舟に入られています。	入居者毎に週2回の入浴を基本とし、入浴状況を入浴一覧表で確認している。入居者が入浴拒否、体調不良の場合は適宜日時を変更する等調整している。一時的な職員不足等の突発的事例では、職員同士ユニット相互に協力し支援を行っている。浴室と脱衣場との温度調整はエアコンとサーキュレーターを活用しているが室温計など目視確認は今後の検討事項である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況により、休息されています。日中は、施設の外へと散歩にお連れしたり、近場にドライブに出かけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、名前・日付等をご本人の前で声を出して確認し、服用されるまで見守りを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様お一人お一人が出来る役割を、毎日の日課のように自らお手伝いさる方もおられます。また天気の良い日は、外へと散歩やドライブにお連れして、気分転換へと支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暫くの間は、密になる場所を避けて、ドライブ外出へとお連れしています。たまにドライブ途中で、季節に応じた焼き芋・お饅頭を買い、喜んで食べておられます。	季節毎に花見を兼ねた近隣へのドライブ、神社への初詣等、可能な限り外出の機会を設けるよう努めている。好天時は日光浴を兼ねホーム敷地内の畑に、トウモロコシ、トマト、キュウリ、なすび等を植え、入居者も収穫を手伝う等、外出を支援している。雨天時はおやつ作りや廊下でリハビリ体操を行う等気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預り金を管理し、欲しいものは介助のもと、職員が購入しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族には了承を得ており、入居者様より希望があった時は、電話をかけています。また、ご家族様からも電話や手紙を送られたりします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室・リビング等の温度・湿度に気を配り、快適な環境を提供できるように工夫し、冬場は乾燥に注意し、加湿器を設置しています。また季節を感じてもらえるように、水仙やひまわり・コスモス等を花瓶に挿し、リビングに置いています。	職員が撮影した風景写真、ホーム内の四季に応じた各種行事の様子をフロア廊下に飾り、入居者の目を和ませている。掃除はアルコール消毒液を使用し、決められた時間に職員が行い、換気は窓に網戸を設置し、雨天時以外は開閉している。除湿機を置き湿度管理を行い居心地の良い共用空間を整備している。ホーム入口にAEDを設置しているが、地域住民への利用案内等の周知は今後の検討課題と言える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを用意しており、入居者様同士お話しをされたり、作品作りをお一人お一人が出来る範囲で楽しくできるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当施設が高台にある為、山の緑が見える居室や海が見える居室があり、季節によって変わる風景を眺めながら過ごされています。また、ご家族の写真を貼ったり馴染みの物を置いて、住み慣れた環境作りを工夫しています。	居室には、テレビ、仏壇、家族写真、本人の思い出のある物品等を入居者個々の好みに合わせ配置している。職員が勤務時間帯に併せ、室温、湿度管理、清掃を行っており、換気も定期的に行われ居心地に配慮した居室作りを行っている。日によっては入居者と職員が一緒に清掃を行い、コミュニケーションを図っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり、安全な環境づくりに努めています。また、トイレ・洗面所・居室には、わかりやすいように名称を記載しています。わかられない方には、同行し説明しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201918		
法人名	医療法人 社団 真友会 藤井医院		
事業所名	グループホームことひら ユニット名 わかば		
所在地	長崎県佐世保市御船町411-3		
自己評価作成日	令和5年5月9日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保湾が一望できる高台に位置する当ホームは、医院長である母体医院の医院長が、長年「地域に根差した医療を」と取り組んできた地域に、感謝の意を込めて設立された。その意思を施設長が受けて理念に捧げ、職員に丁寧に伝えていった結果、今でも全職員にその思いは浸透している。私達は「最後までその人らしさを大切に」という思いを胸に、入居者様のご家族が「ここで過ごせて良かった」と言ってくれるような介護を目指し、日々支援させていただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年7月12日

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 わかば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階の入り口に「理念」を掲げ、皆で共有して実践に繋げるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議においては、地域の方々に書面上での参加にて意見をいただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	問い合わせは随時受け付けており、相談等に適切に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの現状報告、ヒヤリハット、事故報告を行い、要望やアドバイスを頂く機会になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修項目によっては会場に参加している。また、リモート参加もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会による勉強会を開催しており、拘束しないケアを理解し実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の内部研修を行い、虐待に関するアンケートも実施し、全職員に向け意識付けを図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用されている方はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には、利用者・ご家族様の様々な不安や疑問に対し適切に答えられるようにしており、納得していただいている。改定時には、その都度書類を準備し説明と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の時に相談できる機関を書面でお伝えしている。来所の際は積極的に声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の定例会・各階のミーティングにおいて、意見交換や提案等を話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績・勤務状況等は当施設長が把握しており、個々の労働時間にも対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にあった外部研修には、オンラインや会場に出向き参加させている。学んだことは書面に残し、定例会で発表してもらい共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に近隣のグループホームのホーム長に参加していただき、お互いの施設の向上に向けて共有している。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が1~2名の入居者様を受け持つ担当制を取っている。寄り添ったケアの向上に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の想いを聴き、面会時や電話等で常に連絡し合い、良い関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	得た情報、本人様・ご家族様の意見を基に、支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に食器を洗ったり、ご自分で出来る事はして頂き、お互い協力しながら役割を持って、生活していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒に参加できる行事や食事等は出来ませんが、専門医への病院受診はご家族様にお願いしている。面会時にはご本人が好きな食べ物など差し入れを持ってきていただいたり、入居者様を職員と一緒に支援していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・ご友人・ご近所の方々など、いつでも訪問していただけるような雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで過ごされている時は、体操や歌を唄ったり洗濯物たたみや食器拭きなどのお手伝いなど職員も交えて楽しく行っている。また、入居者様の行動を見守り、必要に応じて支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了されても、相談を持ち込まれることがあれば、出来る範囲で対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話を多く持ち、表情や行動の変化を見落とさないように努めている。状態に応じて一対一でゆっくりと傾聴するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様から、今までの生活歴や生活環境等を聴き、また入居前に利用されていた介護事業所や主治医から情報を頂き、可能な範囲で把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中に1～2時間休みたい方、居室でテレビを観たい等、個々に応じて生活できるようにご本人の思いを共感し支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者がご本人やご家族の意向を伺い、入居者様にどのようなサービスが必要なのかを計画している。毎月の定例会やフロアミーティングにて、入居者様の状態等を確認し支援方法を考え、見直しも行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやカルテの特記に、日々の気づきや情報を記入し、職員全員で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等、必要に応じて支援している。様々なニーズに可能な限り対応したいと考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺に居住しておられた入居者様が昔あったお店の話がされたり、仲の良い近所の方が定期的に面会に来られ、近所の情報で盛り上がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他の医療機関の受診も行っているが送迎はご家族様にお願いしている。当医院では、2週間に一回の往診があり、3か月に一回定期受診を行っている。また毎朝、主治医に状態報告をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月曜から土曜日の昼間は、常勤の看護師に診てもらっている。夜勤緊急時も、看護師に連絡し看護師より主治医に連絡を取り、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先との情報交換を行い、入居者様が安心して入院生活を送り、早期に退院することが出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームは母体が医院である為、医師・看護師との協力体制が十分に取られている。入居者様・ご家族の意思を第一に、最後までその人らしく過していただけるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会での定期的に行われる勉強会において、看護師により初期対応の訓練を学んでいるとともに、緊急対応マニュアルを各職員が目を通し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回消防署より来所していただき、避難訓練の指導を受けていましたが、コロナ感染防止のため指導を受けることができなくなっていた。5月より消防署の指導を再開している。以前と変わらず防災委員が主となり、2か月に一回のペースで職員と入居者様で、避難訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した言葉かけや居室に入る時はノックをし、トイレでは膝にタオルをかける等、プライバシーの確保に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中から不安な気持ちでおられる入居者様に対し、一対一で話をし思いを受け止めてあげられるように、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日を決まった曜日に設定していますが、気分によって入浴日を変更して対応したり、入居者様の意思も取り入れて、過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を染めたいと希望される方には、髪染めを職員がお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のできる範囲でお手伝いをいたしております。行事の時には、職員と一緒に手作りし、食べられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や食事量、水分量を把握しながら支援している。食事量の少ない方には栄養補助食品、水分はコーヒーやジュース、また誤嚥リスクが高い方は水分ゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	治療が必要な方には、歯科往診してもらっている。毎食後のケア時には、職員が同行し見守り・介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表から、個々の排泄パターンを把握し、トイレの声かけ介助を行いながら、排泄の失敗を軽減できるよう支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時での水分(お茶・服薬時の水)、またヤクルト等の乳酸菌を毎日摂っていただいています。運動は外へ散歩したり廊下歩行等を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週二回で曜日を決めているが、ご本人が望まない場合は変更を行っている。菖蒲湯などの季節湯も入居者様に楽しんでいただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息を取っていただいている。コロナ感染予防のため、近場で屋外の密にならない場所へお連れしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には飲み間違えがないように、声を出して読み上げ、服用されるまでを確認している。また、体調や行動の変化など異常時には、看護師・病院へと報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の役割や楽しみがあられ、自らお手伝いをしてくださっている。外への散歩・ドライブ、野菜の水やりなど楽しみに参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への行事等の参加には、以前のように参加できていないが、近場へドライブしたり、季節を感じてもらえるような桜やあじさいの花見、初詣などの季節毎の外出も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預り金を管理し、欲しいものを職員の介助のもと、購入されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族には了承を得ており、ご家族に電話を掛けたい時には対応している。ご家族様からもお手紙やお電話をいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に気を配り、過ごしやすい空間づくりに努めている。共用空間には行事の時の写真を貼ったり七夕飾り等、季節感を味わうことのできる作品を飾っている。掃除や換気は毎日行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに座って、入居者様同士でお話をされたり、懐かしい歌謡曲を流してゆっくりと過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を貼ったり、好きなものを置いたりすることで、心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり、安全な環境作りに努めている。		